

Autodesk Revitデータ共有オプション

構造モデラー +Revit Op.

「構造モデラー+Revit Op.」は、一貫構造計算ソフトウェア「構造モデラー+NBUS7」とオートデスク社のBIMソフトウェア「Autodesk Revit®」間でデータ共有を実現する「構造モデラー+NBUS7」のオプションプログラムです。

「情報精度の低下」を解決する最適なソリューション

一貫構造計算とBIMとの新しいデータ連携のカタチ

構造躯体を入力する構造設計プラットフォーム「構造モデラー」とひとつの建物データ(Revitプロジェクト)を共有し、BIMとの整合性を保持しながら構造設計を進めることができます。また、「構造モデラー」上で一貫構造計算および出力を行うソフトウェア「+NBUS7」によりダイレクトに構造計算を行うことができます。

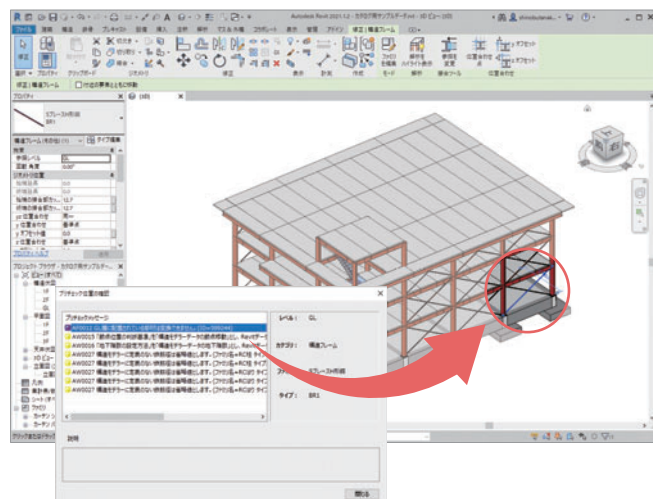
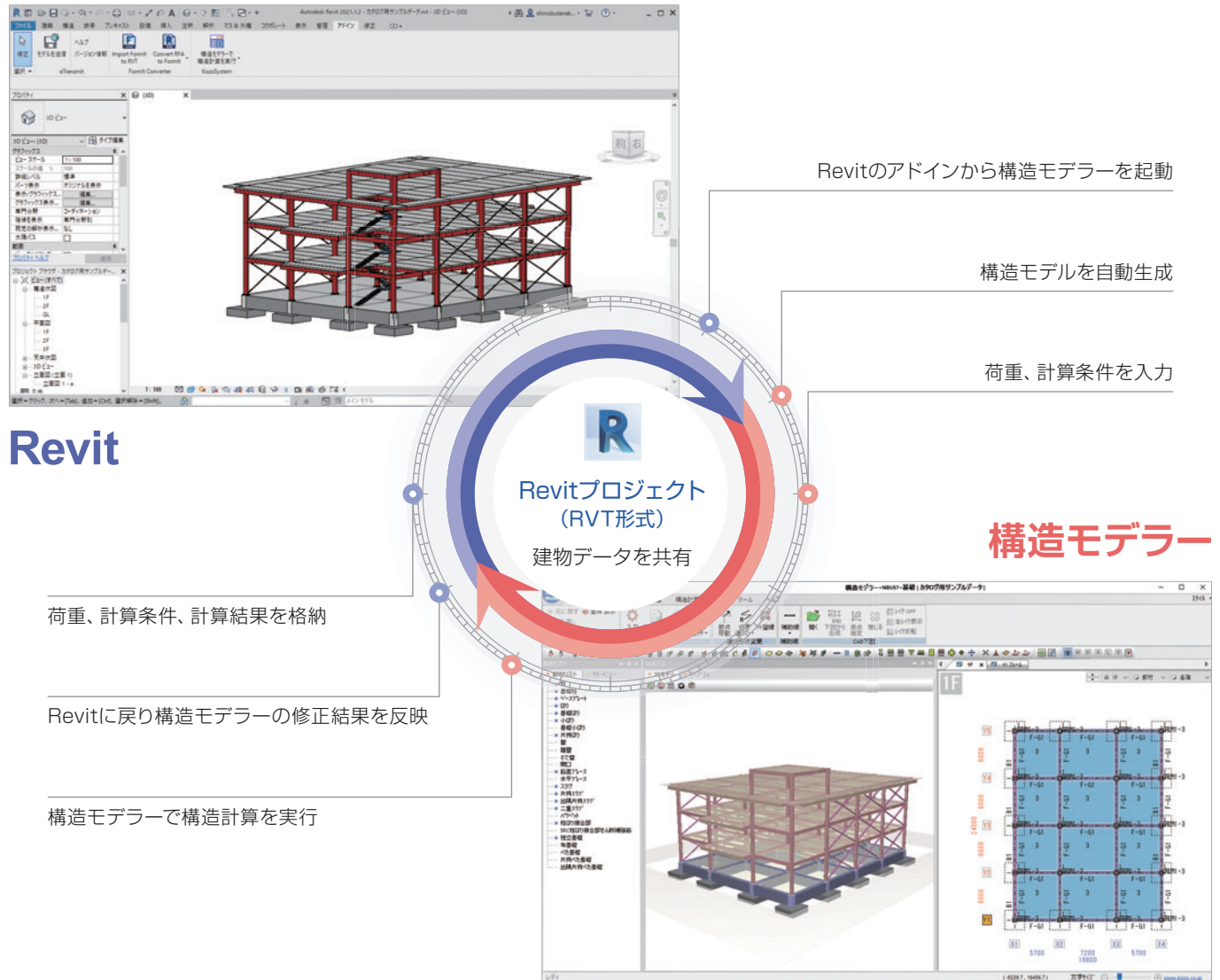
また、建物データだけでなく構造計算に必要な荷重と計算条件も「構造モデラー」と「Revit」で共有できます。構造システムは、オートデスク社のAEC業界パートナーです。

建物形状の共有で構造モデラーとRevit間の整合性を保持

+Revit Op.の機能により、構造モデラーは、Revitのアドインメニューから起動でき、構造モデラーの作業終了後に自動でRevitに戻ります。

構造モデラーで作成、編集した建物形状をRevitで開くこと、Revitで作成、編集した建物形状を構造モデラーで開くことができ、構造モデラーで入力した荷重データ、計算条件などの構造計算データもRevitプロジェクトへ保存できます。

また、RevitプロジェクトのGUIDと構造モデラーのGUIDを関連付けることで、変換対象の部材(オブジェクト)を明確化し、不必要なモデルの新規変更を少なくします。



メッセージ位置をRevitで確認

Revitから構造モデラーを起動するときに表示されるメッセージについて、メッセージ対象の部材位置をRevit上で確認できます。位置を確認したいメッセージを選択すると、Revitの画面でメッセージ対象となったインスタンスが選択状態となり強調表示されます。

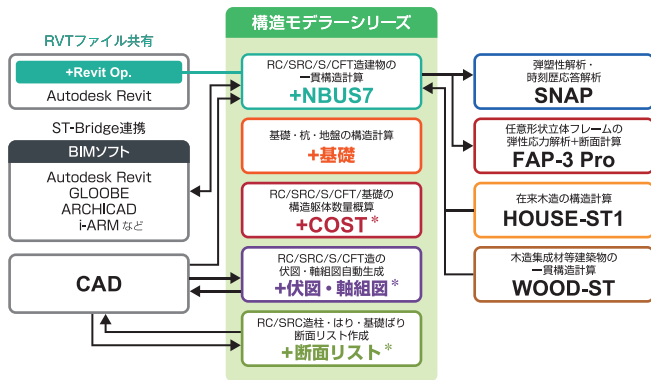
スラブ厚ゼロ、壁厚ゼロの構造モデラーデータ保持機能

構造モデラーに構造計算で使用されるスラブ厚ゼロ、壁厚ゼロの部材入力がある場合でもRevitデータに格納できます。Revit側ではスラブ厚ゼロ、壁厚ゼロの部材をインスタンスとしませんが、再度構造モデラーに変換する際にはスラブ厚ゼロ、壁厚ゼロのデータを復元します。

ファミリのマテリアルと構造モデラー断面符号の材料をリンク

+Revit Op.では、Revitのファミリのマテリアルと構造モデラーの断面符号およびプロパティ配置の材料をリンクします。

さまざまな製品ヘデータ活用



* 確認申請用プログラム利用者の会の+NBUS会員は標準で利用できます。

Revitのアプリケーションにも対応

構造モデラーからRevitへインポートしたプロジェクトは、Autodesk App Store*で公開されているつぎのRevitアプリケーションなどにも対応できます。

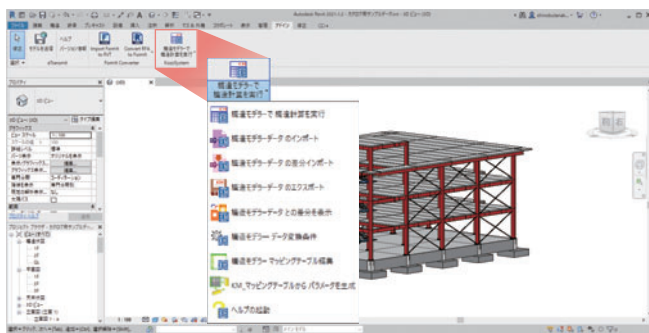
- ・ RC断面リスト作成
- ・ S断面リスト作成

※<https://apps.autodesk.com/ja>



基本操作

Revitを起動後にアドインメニューに追加される次のメニューから操作を行います。



構造モデラーで構造計算を実行

Revitの建物形状データを構造モデラーで共有し、構造計算などの作業を行うことができます。

構造モデラーデータのインポート

構造モデラーからRevitに建物形状や荷重などをインポートします。

構造モデラーデータの差分インポート

Revitデータに構造モデラーデータを差分インポートします。この機能は、Revitオペレーターと構造計算担当者が別で並行作業を行いたい場合などに有効です。

構造モデラーデータのエクスポート

Revitから構造モデラーデータをエクスポートします。

構造モデラーデータとの差分を表示

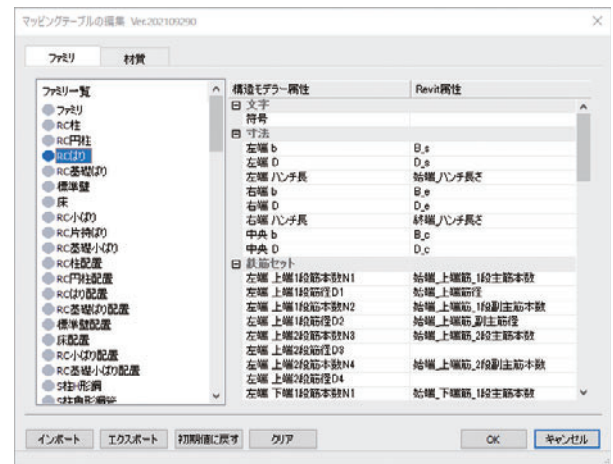
構造モデラーデータとRevitデータの差分を表示します。

構造モデラーデータ変換条件

Revitデータと構造モデラーデータの変換条件を指定します。

構造モデラーマッピングテーブル編集

+Revit Op.で使用するファミリーとの互換性を設定するテーブルファイルの編集ができます。



構造モデラーマッピングテーブルからパラメータを生成

マッピングテーブルから不足しているパラメータをファミリーに追加することができます。

ヘルプの起動

+Revit Op.のヘルプを起動することができます。

+Revit Op.ならではのメリット

データを共有

Revitとのデータ連携の多くは、BIM標準フォーマット(IFC、ST-Bridgeなど)ファイルを通して一貫構造計算ソフトウェアからRevitへの一方通行リンクですが、+Revit Op.ではRevitプロジェクト(RVT形式ファイル)を共有することで双方のリンクを可能にしています。

データ整合性確認の時間短縮

Revitプロジェクト(RVT形式ファイル)を共有しているため、一貫構造計算ソフトウェアの計算書とRevitデータ(図面)の整合性確認に必要な時間を短縮することができます。

構造計算の再計算が可能

Revitプロジェクト(RVT形式ファイル)に構造計算に必要な荷重、計算条件を解析用データとして保存できます。Revitプロジェクトを保存しておけば、+NBUS7により構造計算の再計算をいつでも行うことができます。

Revitモデル、構造モデラーのGUIDを関連付け

レベル、通り心、インスタンス(部材の配置)については、RevitプロジェクトのGUIDと構造モデラーのGUIDを関連付けし、変換対象の部材(オブジェクト)を明確にすることで、軸や層の追加・削除時でもRevitモデルへの差分変更が可能になります。

適用範囲

X、Y方向の最大スパン数：99スパン
 最大階数：99階
 構造種別：RC造、S造(CFT柱含む)、SRC造建物

建物形状の変更機能

建物形状	対応状況	建物形状	対応状況
通り心の追加、削除	○	柱打ち増し寸法	—
層の追加、削除	○	はり打ち増し寸法	—
任意通り心	—	柱、基礎柱断面主軸の回転	○
節点移動*	○	独立基礎、杭基礎フーチングの回転	○
はり、基礎ばりレベル	○	柱、基礎柱の寄り	○
片持ばり、片持基礎ばりレベル	○	はり、基礎ばりの寄り	○
スラブ、べた基礎レベル	○	片持ばり、片持基礎ばりの寄り	○
小ばり、基礎小ばりレベル	△	壁の寄り	○
独立基礎、布基礎、杭基礎レベル	○	プレースの寄り	△
片持ばり、片持基礎ばり鉛直勾配	○	独立基礎、布基礎の寄り	○

○：対応 △：Revit側の設定を保持 —：未対応または対応対象外
 ※ 節点同一化は未対応

構造モデラー 荷重データ、計算条件データ

すべて対応

部材形状

	RC造	S造	CFT造	SRC造
柱	矩形 円形	H形鋼 角形鋼管 円形鋼管	角形鋼管 円形鋼管	矩形H形鋼 矩形十字形 矩形T字形 矩形角形鋼管 (充填被覆・被覆) 矩形鋼管 (充填被覆・被覆) 円形H形鋼 円形十字形 円形鋼管 (充填被覆・被覆)
ベースプレート*1	—	在来工法	在来工法	—
はり	矩形	H形鋼	—	矩形H形鋼
基礎ばり	矩形	—	—	—
片持ばり	矩形	H形鋼	—	—
片持基礎ばり	矩形	—	—	—

	RC造	S造	CFT造	SRC造
壁*2	耐震壁 雑壁 そで壁	—	—	—
壁開口	開口(矩形) スリット開口	—	—	—
プレース*3	—	丸鋼 平鋼 山形鋼 円形鋼管 みぞ形鋼 H形鋼 角形鋼管 軽量角形鋼管 軽量C形鋼	—	—
スラブ	スラブ 片持スラブ 出隅スラブ			
小ばり	矩形	H形鋼 みぞ形鋼 角形鋼管 箱形 軽量角形鋼管 軽量C形鋼	—	—
基礎小ばり	矩形	—	—	—
直接基礎	独立フーチング基礎 布基礎 べた基礎			
杭基礎*4	基礎フーチング			

*1 既製品ベースプレートは、Revitデータに格納することで、再度構造モデラーに変換する際に復元します。

*2 その他の壁は、Revitデータに格納することで、再度構造モデラーに変換する際は復元します。

*3 適用可能なプレース形状：片プレース、X形、K形、V形、任意鉛直プレース
 上記以外の鉛直プレース形状(方杖プレース、マンサード等)、断面性能直接入力
 のプレース、水平プレースは、Revitデータに格納することで、再度構造モデラーに変換する際には復元します。

*4 杭は、Revitデータに格納することで、再度構造モデラーに変換する際に復元します。

その他の部材

・ダミー柱

ダミー柱は通常の柱と同様に、Revit上では柱ファミリタイプのインスタンスとして取り扱います。

・ダミーばり

ダミーばりは通常のはりと同様に、Revit上でははりファミリタイプのインスタンスとして取り扱います。

動作環境

対応 OS: Windows 11*1
 メモリー: 8GB(推奨 16GB以上)
 ディスク空き容量: 2GB以上のディスク空き容量
 ディスプレイ: 1280×768
 グラフィックス: OpenGLの機能をサポートできるビデオカードとドライバー

ライセンス認証: ネット認証*2
 インターネット接続: ネット認証時はインターネット接続が必要*3
 必要なソフトウェア: +NBUS7、Autodesk Revit*4*5

*1 Windows 11 SおよびARM版は除きます。

*2 ネット認証は仮想環境では利用できません。

*3 インターネット接続できない場合は、販売店または下記営業までお問い合わせください。

*4 対応しているバージョンなど詳細は当社ホームページをご参照ください。

*5 動作環境はオートデスク社ホームページをご参照ください。

価格

本体価格

+Revit Op.	660,000円(税込)
+NBUS7	1,980,000円(税込)
+NBUS7 低層版	1,188,000円(税込)
+NBUS7と+Revit Op.のセット購入	2,376,000円(税込)
+NBUS7 低層版と+Revit Op.のセット購入	1,663,200円(税込)

年会費(確認申請用プログラム利用者の会)

+Revit Op.	79,200円(税込)
+NBUS7	158,400円(税込)

・教育版は下記営業までお問い合わせください。
 ・年会費は製品購入時に一括してお支払いいただけます。

+Revit Op.の最新情報は当社ホームページをご参照ください。
https://www.kozo.co.jp/program/kozo/km/nbus7/revit_op/

